

情報教育って…

◎ **子どもたちの情報活用能力の育成** 文部科学省「教育の情報化に関する手引」より



『情報活用の実践力』

- 課題や目的に応じた情報手段の適切な活用
- 必要な情報の主体的な収集・判断・表現・処理・創造
- 受け手の状況などを踏まえた発信・伝達

『情報の科学的な理解』

- 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解
- 情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

『情報社会に参画する態度』

- 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響の理解
- 情報モラルの必要性や情報に対する責任
- 望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

3 発信～考えを深める発信～

- ペア、小グループ、学級全体での意見交換
 - ・自分の考えの発信
 - ・他の児童生徒の見方、考え方の共有
 - ・自分の考えとの比較
 ⇒児童生徒の再考の場面



○発信する際の注意点

- ・自分の考えを持つ。
- ・根拠を明確にする。
- ・調べた情報と自分の意見を区別する。
- ・自分の発言（発信する内容）に責任を持つ。



授業実践

- 小学校 理科 6年「大地のつくりと変化」
豊川 秀樹 教諭（柘江小学校）
- 中学校 保健体育 3年「健康とのかかわり～感染症について～」
遠藤 昌宏 教諭（長命ヶ丘中学校）

1 収集～図書資料とネットの利用～

- 情報手段の特性の理解
 - 【図書資料】
 - 知りたい情報への近道 ⇒ 索引、目次の活用
 - △十分な図書資料の確保が困難
 - 【インターネット】
 - 容易に膨大な情報を収集可能
 - △信ぴょう性の問題⇒誰が発信したの？正しい情報なの？
- ◆図書資料を確保するために ⇒ 市図書館との連携する。
- ◆信ぴょう性を高めるために ⇒ 複数の資料から情報収集する。
- ◆情報の根拠とするために ⇒ 出典を明らかにする。



図書資料、インターネットを使用した情報収集



共通の図書資料「仙台の自然」を使用した情報収集。

2 整理、分類～課題解決につながる構造的ワークシート～

ワークシートの項目を、「事実」「根拠」「気付き」「推論」と段階を踏んだものにした。思考の流れに基づいた項目を配列することで、自分の考えを持つことができた。

●ワークシートを活用した情報の整理・分類

- ・調べた情報を項目ごとにまとめる⇒情報の整理・分類の方法を学ぶ
 - ・ワークシートの効果的活用⇒課題解決、自分の考えの整理につなげる
- ①比較、分類できるワークシート（中学校 保健体育）
②思考の流れに基づいたワークシート（小学校 理科）

ワークシートの項目に、整理する視点を与えることで、比較検討しやすくなった。その結果、ワークシートの整理を基に自分の考えをまとめることができた。



成果 ◎日常の学習活動中での情報活用能力育成 ◎整理・分類の視点を組み入れた構造的ワークシート
◎教科の目標に合った情報収集の提示・補助資料 ◎他者と自分の考えとの比較や振り返りによる発信

課題 ◇各教科指導における情報活用場面の意識化 ◇情報教育と図書館教育の連携
◇多様な情報活用を支援するワークシートの開発

参考資料

- ・教育の情報化（文部科学省） <http://jouhouka.mext.go.jp/index.html>
- 「教育の情報化に関する手引き（平成22年10月）」「教育の情報化ビジョン（平成23年4月）」
- ・つくつた+あつまと～情報活用を助けるWeb教材～ <http://www.ina-lab.net/special/tsukutsuta/>

詳しくは、仙台市教育センター 教育の情報化研究委員会「情報教育部会」のリンク集を御覧ください